

イエスは祈っておられた

ルカ 9 : 18 - 24

ゼカリヤ 12 : 10



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年6月19日

聖霊降臨後第2主日

大津聖マリア教会にて

「イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。」ルカ 9:18

今日の福音書の冒頭の言葉です。今日はこれを心に留めたいと思います。

「イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。」

この情景を、ありありと思い浮かべてみましょう。

イエスが祈っておられる。それを感じたい。イエスが祈っておられるのを感じなければ、わたしたちは神さまのことなど忘れて、焦ったり不安だったりを繰り返します。

けれどもイエスが祈っておられる。ひとり祈っておられる。わたしたちは静かになります。祈っておられるイエスの周りの空気は特別です。その空気の中に入れられるなら、わたしたちもイエスとともに祈り始めることになるでしょう。

イエスは何を祈っておられたのでしょうか。

ひとつは、ご自身のことについて祈っておられたに違いありません。一方にはイエスを慕い求める人たちがおり、もう一方にはイエスを憎み折あらば捕らえようと狙っている人たちがいます。身の危険を感じる中で、イエスのご自分の道をしっかりと歩んで神から託された使命を果たせるように、神の力と導きを求めて祈っておられたに違いありません。

けれどもイエスは同時に、自分に従ってくる弟子たちのためにも祈っておられました。イエスは弟子たちを招かれました。それには目的があります。共に神さまのために、神の国のために働くようになってほしい。そのためにイエスは弟子たちを教え、育てていかれます。

確かに弟子たちは成長しています。しばらく前にイエスは 12 弟子を呼び集め、町や村に派遣されました。彼らは、福音を宣べ伝え、人々の病気を癒やして帰って来ました（ルカ 9:1-6）。うれしいことです。弟子たちが信仰と働きにおいて成長することほど、イエスの喜びとなるものはありません。

しかしなおイエスには弟子たちについて大きな気がかりがありました。もっとしっかりしてほしい、成長してほしいと願われることがあったのです。

第1に、弟子たちはまだ信仰が薄く頼りない。深く祈ることを知りません。一人ひとりが神さまとしっかりつながり交わることが、十分にできていないのです。これが気がかりです。

第2に、弟子たちのお互いの関係が必ずしもよくないことです。誰が一番偉いかとか、誰が上か下かとか、そういうことを思ったり言ったりして、お互いに愛しあい尊敬しあうことができません。

このような心配な困った弟子たち。しかしこの弟子たちをイエスは愛して、祈っておられました。一人ひとりが神さまと深く交流して祈る者となるように。お互いの間に違いや葛藤があったとしても、神さまのために心と力を合わせる者となるように、祈りつつイエスは弟子たちを育てていかれます。

今日の箇所、「イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。」

弟子たちはそばにいて、イエスの祈りを、その空気を感じています。

祈り終わって、イエスは弟子たちに尋ねられました。

「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか」ルカ 9:18
弟子たちは答えました。

「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『だれか昔の預言者が生き返ったのだ』と言う人もいます。」 9:19

「イエスが言われた。『それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。』」 9:20

弟子たちはこれまでずっとイエスがどういう方であるかを心で問い、お互いの間で話したりして、思いは次第にはっきりして来ていたでしょう。けれども、今イエスに問われて、それを明確に言葉で告白するのです。

「ペトロが答えた。『神からのメシアです。』」 9:20

これは大きな前進です。イエスが誰であるか、何であるかを、はっきりと言葉で表現したからです。言葉でイエスをメシア（救い主）とはっきり言ったことで、ペテロをはじめ弟子たちの信仰ははっきりとしたものになりました。もう後へは戻れない。信仰の段階がひとつ大きく進んだのです。これはわたしたちの洗礼における信仰告白と似ています。

見方を変えれば、イエスは問いかけることによって弟子たちの信仰を呼び覚まされたのです。

それからしばらく時がたって、イエスはまたひとり祈っておられました。その時も弟子たちがそばにいました。こう書いてあります。

「イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、『主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください』と言った。」ルカ 11:1
祈りたい。しかしなかなか祈れない。どう祈ったらよいかわからない。それで思い切ってイエスに願った。「わたしたちに祈りを教えてください」。

このように尋ねること、願いを口にすること自体が信仰の大きな前進です。それに対してイエスは答えられました。

「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、御名が崇められま

すように。御国が来ますように。……」11:2

こうして弟子たちは「主の祈り」を教えていただいた。祈る言葉だけではなく、祈ることそのものを学んでいったのです。

今日は、イエスがひとり祈っておられた場面を二つ思い浮かべました。一つは今日の福音書、ルカ 9 章 18 節。イエスがひとり祈っておられ、その祈りの後、「神からのメシア」というペテロの信仰告白が起こった場面。もう一つはルカ 11 章、イエスがひとり祈っておられて、祈りが終わったとき、弟子の願いに答えて主の祈りを教えられた場面です。

このようにして弟子たちは、信仰を告白することによって成長し、祈りを学ぶことによって大きく成長していきました。そのようにイエスは弟子たちの信仰を育まれました。わたしたちも同じです。イエスは祈りつつ、わたしたちの信仰を見守り、育んでいかれます。

ところで今日の旧約聖書に祈りのことが出て来たのに気づかれましたでしょうか。

「わたしはダビデの家とエルサレムの住民に、憐れみと祈りの霊を注ぐ。」ゼカリヤ 12:10

「わたしは憐れみと祈りの霊を注ぐ」

「ダビデの家とエルサレムの住民」は、神の民であるわたしたちのことだと理解しましょう。この言葉はわたしたちへの約束です。わたしたちはもっと祈らなければならない。祈りが足りない——これはわたしたちの誠実な反省です。けれども神さまは約束してくださる。あなたがたがもっと祈れるように、祈りが慰めとなり喜びとなり力となるように、わたしが祈りの霊を注ぐ。祈る霊を、祈らせる霊を、祈りのうちに働く霊を、聖霊をあなたがたに注ぐと言われます。

祈ります。

神さま、わたしたちの弱さと過ちを超えて、主イエスが祈りつつわたしたちの信仰を育ててくださることを感謝いたします。どうかわたしたちに、約束された祈りの霊を注いでください。それによってわたしたちを慰め強めて、主と共に神の国のために祈り働く者としてください。イエス・キリストのみ名によってお願いいたします。アーメン